

# Istanbul Weekly vol.3-no.19

## イスタンブール ウィークリー

発行：在イスタンブール日本国総領事館 発行日：2014年6月6日（金）

### — 今週のポイント —

- 政治：**世論調査：エルドアン首相は首相を続投すべきか大統領か。  
Youtube、67日後に解禁される。
- 軍事：**ジャンダルマ（軍警察）の組織改編。  
司法介入はもはや犯罪ではない。
- 経済：**インフレ率、過去2年間で最高水準。  
日本メディア大手がトルコ市場に参入。  
トルコ産業実業家協会（TUSIAD）会長が辞任。※通称：トルコ経団連
- 治安：**ゲジ公園大規模抗議デモから1周年。  
市バスが燃やされる。
- 社会：**トルコ航空は、日本人にとって大切な存在。  
空港入口のX線検査廃止。

### 政治

#### 【大統領選挙関連】

#### ●今後の大統領選挙日程

- ・6月29日（日）：大統領立候補申請の開始。
- ・7月3日（木）：大統領立候補申請の締切。
- ・7月11日（金）：官報にて大統領立候補者を公表。
- ・8月10日（日）：第1回投票日。
- ・8月24日（日）：決戦投票日：（第1回投票で決定しなかった場合上位2名の候補者に対して実施される）
- ・8月28日（木）：現大統領の任期終了日
- ※在外トルコ人の投票期間：7月31日～8月3日（第1回）、8月17～20日（決戦投票）
- ・有権者数（在外トルコ人も含む）：5542万9000人  
（4月15日付M紙インターネット版、5月7日付HT紙18面、5月29日付HT紙21面）

#### ●大統領選挙に向けたシャドーキャビネット

ロイター通信によると、AKP 幹部は大統領選挙に関して、エルドアン首相が大統領に就任した後、トルコを「賢人評議会」あるいは「影の内閣」とともに政権を運営していくと同通信に話した。賢人評議会の一部は、エルドアン首相の既存の内閣閣僚から構成され、ボズダー法務大臣、ユルドゥズ天然資源エネルギー大臣、アルンチ副首相、アタライ副首相らの名前が挙がっている。（6月5日付T紙9面）

#### ●元運輸大臣、党首顧問へ

エルドアン首相は、ユルドゥルム元運輸大臣を新たに AKP 党首の顧問に就任させた。これにより同元大臣が、大統領選挙に向けてエルドアン首相の傍らになることになる。（6月5日付HT紙18面）

#### ●世論調査：野党の統一候補に投票？

大統領選挙に関して5月に実施された世論調査結果（Metropoll社）。（6月2日付HT紙17面）

Q.エルドアン首相は首相続投すべきか大統領就任か？	
A.どちらでもない	45
A.首相続投	33
A.大統領就任	17
Q.エルドアン首相が大統領に就任した場合の首相候補は誰が適任？	
キョル現大統領	13
アルンチ副首相	12
クルトカムシュ副党首	5.3
ダーウトオール外相	5
ハバシヤン副首相	2.2
Q.大統領としてエルドアン首相なしキョル現大統領から選ぶならどちらか？	
エルドアン首相	26
キョル現大統領	36
Q.希望する大統領候補は？	
キョル現大統領	23.1
エルドアン首相	22.3
アクシナル議員(MHP)	5.6
ハシブー元参謀総長	4.5
ヤヴァシユ元アンカラ市長候補(CHP)	3.2
クルチダルオールCHP党首	2.8
バイカル前CHP党首	2.7
ビュックエルシェン・エスキシヒル大市長	2.2
ハフチエルMHP党首	2.1
シネル元財務大臣(AKP設立メンバー)	1.9
クルチ憲法裁判所所長	1.8
フェイスオール全国弁護士連盟協会会長	1.3
Q.野党の合同候補者に投票するか？	
はい	40.3
いいえ	48.8
Q.大統領の中立性について。	
中立性を求める	62
政党に所属した大統領	31

※掲載内容は、トルコの新聞報道をまとめたものです。

### ●CHPによる選挙シミュレーション

CHP 在外組織化調整担当のオズボラット議員（カフラマンマラシュ県選出）は大統領選挙に向けたシミュレーション・データを用意し、クローズドの会合で発表。

得られた情報では、第1回投票にて大統領に選出されるためには2300万票（51%）以上の得票が必要となる。3月に実施された地方選挙の際の政党別得票率を考えると（AKP43.3%、CHP25.6%、MHP17.7%、BDP・HDP6%）、第1回投票で各政党推薦の候補者の中から大統領が決定されることにはならない。

AKPは第1回投票で結果を出したいことから、在外トルコ人票160万票を加えて2100万票まで増加させ、さらにクルド系政党のBDPやHDPと国内の右派支持有権者の200万票が加わるとエルドアン首相は第1回投票で大統領就任の道が開かれる。3月の地方選挙の際のCHP総得票数は1148万2490票であり、在外トルコ人票を加えて1200万票が見込まれ、第2回投票（決戦投票）に持ちこまれた場合には、更に850万票が必要となってくる。（5月29日付HT紙21面）

### ●OSCE、選挙監視団を派遣

3月末に実施された地方選挙に関する動き（票数の再カウントや再選挙等）を懸念して、欧州安全保障協力機構（OSCE）が、今夏の大統領選挙に向けて選挙監視団を派遣する予定。OSCEの民主制度・人権事務所（ODIHR）は5月7～9日に、トルコ政府の招待により大統領選に向けた監視団の需要評価ミッションを実施していた。（6月5日付HDN紙1面）

#### 【地方選挙再投票】

### ●地方選挙の再投票実施

高等選挙委員会（YSK）の決定により、2県・7郡・5町にて地方選挙の再投票が実施された。ヤロヴァ県では、CHP支持者らとAKP支持者らとの間で喧嘩が生じ、大包丁を持ち出したとされるAKP支持者ら2名が拘束された。アール県ではBDPのサクック市長候補が警察と議論になった。

(1)ヤロヴァ県：CHPは他政党の支持を受けて、CHPのヴェファ・サルマン氏が2万9227票（48%）を得票し、市長に選出された。AKP推薦のヤクップ・ビルギン・コチャル氏は2万609票（47.6%）だった。前回投票時、コチャル氏が1票差で勝利していた。

(2)東部アール県：BDP推薦のスル・サクック氏は、3月末のアール市長選挙の際に200票差でAKP候補のハサン・アルスラン氏に勝利していたが、今回の再投票ではサクック氏は2万3460票（51.2%）、アルスラン氏は2万609票（44.8%）であった。前回投票時、サクック氏が10票差で勝利していた。（6月2日付H紙1面、HT紙17面）

### ●再投票に関する調査会社の見方

(1) ゲズジ調査社のムラット・ゲズジ社長は、今回の再投票に際して、AKP票が大きく失われたという状況ではなく、トルコの保守派ないし伝統主義層にとって最適な大統領候補はエルドアン首相であることから、大統領選挙では野党共同候補がいてもエルドアン首相が大統領に選出される可能性が高いと見る。

(2) ゲナル調査会社のイフサン・アクタシュ社長は、野党の共同候補は全体票の40%と見られるが、（野党側が）気を緩められる状況ではない旨述べた。

(3) コンダ調査社のタフラン・エルデム所長は、この再投票戦は過去の3選挙でAKPが初めて苦しんだものである。有権者15万人が全有権者を代表してAKPに対して警告を発したかのようであると述べた。（6月3日付HT紙19面）

### ●チャンクル県シャバノズ市、舗装工事が中途半端に

チャンクル県シャバノズ市では町と近隣のギュルプナル村を結ぶ5kmの道路の舗装工事がアンカラ大市によって行われていたが、1日夜に選挙結果が判明した直後（シャバノズではAKP候補のアリ・チャプチュ氏が落選し、MHP候補が当選）、工事チームはアンカラに呼び戻された。これにより5kmの道路の3km部分が未舗装のまま放置され、同様にシャバノズとギュメルディン村を結ぶ4km道路工事も放棄された。

AKPチャンクル県青年支部副支部長のフセイン・クルチ氏はFacebook上において「我々はアンカラ大市によってシャバノズで進めていた道路舗装工事を止め、重機や作業員はアンカラに戻った」、「シャバノズは自業自得である。後5年は行政サービスは受けられないだろう。シャバノズよ、後悔するには遅い」と書いた。新市長となったカラカヤ・シャバノズ市長はアンカラ大市の道路工事チームが工事途中のまま立ち去ったのを知ってショックを受け、「ギョクチュク・アンカラ大市長がチャンクル県民にこんなことをしたとは信じたくない」旨述べた。チャンクル県は以前はアンカラ県の一部だった。（6月4日付TZ紙3面）

### ●【参考論調】再選挙レビュー

ヤロヴァ県及びアール県においてCHPもAKPも得票数を伸ばしており、増加した票がどこから来たかというMHPである。MHPは二県の地方選挙（3月）及び同再選挙（6月）において約2500票を失っている。実はMHPからCHPへの票の移動というのは3月の選挙の際に既に始まっていたことで、6月の再選挙の際にその動きがより明確になった（CHPより低い率ながらAKPにもMHP票は流れた）。また、ヤロヴァ県の再選挙では労働党（IP）及び権利平等党（HEPAR）が各候補を引き下げた結果、こうした極右ナショナリスト政党からの助けによりCHPが勝利したと言える。このヤロヴァ県再選挙が今後の選挙の小リハーサルだと考えると、可能な協力体制によってどのように機能するのかについて示唆を与えるものである。

アール県ではBDPが強力な選挙キャンペーンを実施し、（3月の前回選挙に比べ）得票数が10%増加。同県の再選挙結果として注目すべき点は、AKPが投入した関係の選挙応援のみならず、事前に展開した行政サービスや経済的利益に関する政策約束は、BDPの謳う政策に比べて力不足だったということである。（6月5日付HDN紙6面、Sedat Ergin氏）

### 【アレヴィー派関係の動き】

#### ●首相、アレヴィー派関係者らと会合予定

エルドアン首相は来週（6月2日の週）に、アレヴィー派の国会議員や経営者、アレヴィー派代表市民組織関係者らと会合を持ち、ジェムエヴィ（アレヴィー派の礼拝堂）の建設・設置、宗教活動等に関する法整備に向けて議論する予定。（5月30日付HT紙20面）

#### ●ジェムエヴィ法案パッケージ準備中

大統領選挙を今夏に控え、アレヴィー派票を重要視して、アレヴィー派に関する法案が準備されている。東部トウンジェリのイェルリカヤ市長が3日にT紙に話した内容によると、アレヴィー派の礼拝場所であるジェムエヴィに関する法的整備の取組が行われており大統領選挙前に詳細が判明すると述べた。（6月5日付T紙8面）

### 【ソマ炭鉱事故関連】

#### ●抗議者を足蹴りした首相府職員、補佐官のまま

ソマ炭鉱事故発生後、現地入りしたエルドアン首相一行に抗議して同首相の車列車両タイヤを蹴った炭鉱労働者エルダル・コジャブユック氏に対して、足蹴りした首相府補佐官ユスフ・イェルケル氏は首相側近チームの官房副長官

の職は解かれたが、首相補佐官としての任務は続投していることが判明。(5月29日付HT紙20面)

#### 【首相の独ケルン市訪問関連】

##### ●独緑の党首、エルドアン首相に欧州

ドイツの緑の党共同党首のジェム・オズデミル氏は、(同氏に対するエルドアン首相の批判に対して)、「エルドアン首相の敵・味方という考え方からはお互いを尊重するという姿勢からほど遠いものだ。エルドアン首相が良いことを行えば褒めるが、同首相が暴力の使用を命令したり、思想の自由を妨げるようなことをすれば厳しく批判する。エルドアン首相がどう考えようと気にしない。重要なのはトルコ社会の二極化を避けることである」旨述べた。(6月3日付T紙9面、4日付T紙7面)

#### 【トルコ・アルメニア関係】

##### ●アルメニア大統領、トルコ大統領を招待

サルキシャン・アルメニア大統領は、来年4月24日がアルメニア人虐殺100周年にあたる来年4月24日にアルメニア首都のイェレヴァンで開催される追悼記念式典にトルコ大統領を招待した。(今年の)エルドアン首相が発言したお悔やみメッセージに言及しながら、「半歩踏み出すだけで真剣な結果を得るのは不可能だ」と述べた。(5月29日付T紙9面)

#### 【トルコ・ウズベキスタン関係】

##### ●トルコとウズベキスタン関係

両国の間は、ギュレン系の学校が原因で長年にわたって緊張関係にあり、ウズベキスタンは今年もトルコ語圏諸国首脳会議に出席しなかった。トルコとウズベキスタン両国外相は、5月、中国で開催されたアジア信頼醸成措置会議首脳会合の際に数年ぶりに会談。トルコ政府がギュレン系と対立関係になって初めての会談で、ダーヴトオール外相は、カミーロフ外相に改めて訪土招待するとともに、ギュル大統領から、カリモフ大統領に対し、チュルク語圏諸国首脳会議への招待をリマインドした。しかしながらウズベキスタンは、ギュレン問題に関するあらゆる説明にもかかわらず、態度を変えず、チュルク語圏諸国首脳会議に参加しなかった。同首脳会議には、アゼルバイジャン、キルギス、カザフスタン、トウルクメニスタンから大統領が出席した。

両国関係は1994年以降凍結状態にあり、2003年にエルドアン首相のウズベキスタン訪問後も進展しない両国関係について、トルコ外務省は、12月17日以後の政府のギュレン教団に対するオペレーション後、関係改善に前向きなメッセージをタシケントに送っているが、カリモフ大統領は、一歩を踏み出そうとしていない。

#### 【その他】

##### ●アヤソフィア博物館は世界の遺産

イスタンブール征服(1453年)から561周年を迎えることからアヤソフィア博物館をモスクに転換させるという議論に再び火が付いている。5月2日にハミ・ユルドゥム議員(無所属)がアヤソフィア博物館をモスクに転換する法案を国会に提出したことがきっかけ。モスク転換支持派と博物館維持派は各々反対キャンペーンを展開。現状の博物館維持派はトルコ国内や世界中の学者から1000名以上の署名を集めており、ボアジチ大学歴史学部パムック教授は、「1934年にアヤソフィアが(モスクから)博物館に移行したのは、友愛の印であった」と述べた。また、マルディン・アルトク大学工学・建築学部タンイェリ教授は、「我々は、イスタンブールがあたかも1000年以上もビザンツ帝国の首都ではなかったかのように、また、歴史が1453年に始まったかのように考えることに対して抵抗し

ている。こうした理解だからこそ、イスタンブールには未だにビザンツ時代に特化した博物館さえ存在しない。アヤソフィアはキリスト教聖堂であったことを納得しなくてはならない。この現実を常に否定して話を続けることはできない。ビザンツ時代と和平しなければ、この議論も続くだけだろう」と話している。(5月29日付T紙6面)

##### ●ギュル大統領のイスタンブール私邸

ギュル大統領は大統領選挙を控え、大統領候補とならなかった場合、現任期を終えた後にイスタンブールに建設中の自宅に引っ越し予定という。その際には、SPや外務省、大統領府の顧問の20名チームも共に異動。同大統領のイスタンブール私邸の場所は異なった主張がなされていて、一つはチャムルジャ、他方はチェクメキョイの邸宅と言われている。(5月30日付HT紙21面)

##### ●YouTube、67日後に解禁される

閉鎖されていた動画共有サイトのYouTubeは、憲法裁判所が5月29日に下した「YouTube閉鎖は違憲」判断に基づき、67日間の閉鎖を経て3日に規制が解除された。YouTubeの弁護士及びトルコ全国弁護士連盟、CHPの議員が憲法裁判所に違憲申し立てを行っていた。(6月4日付T紙7面)

##### ●イスタンブールの公式な集会場所

イスタンブール県庁は、県内で開催される集会場所(集合・デモ行進・会合・解散の場所)は、ヨーロッパ側ではイエニカプ海岸沿い、アジア側ではマルテペになると発表。(6月5日付T紙9面)

##### ●ゲジ公園抗議デモ遺族が財団設立

昨年のゲジ公園抗議デモで警官らによる殴打で死亡した故アリ・イスマイル・コルクマズ氏の遺族らが中心となって財団を設立(設立資金現金5万リラ)。設立目的は、同氏を記憶に残し、社会の連帯や民主的・社会的平和文化を発展させ、暴力を減らすことであり、社会・文化・教育・スポーツ・環境・障害者・健康・社会の不正さの減少等の観点から取組を行っていくこと。(6月5日付T紙9面)

##### ●トルコ、ILO理事国に

労働社会保障省の発表によると、トルコは今後3年間の任期中でILO理事国メンバーに選出された。この一方で、この発表は5月13日に発生しトルコ史上最悪の事故となったソマ炭鉱事故(死者301名)の最中、同省にとって困難な時期と重なった。(6月5日付HDN紙1面)

#### 【トルコ・北イラク関係】

##### ●北イラク産出石油、トルコ経由欧州へ売却か

北イラク地域政府のセフィン・ディザイ報道官によると、イランに対しても石油・天然ガスのパイプラインを敷設することでイラン政府と合意したと発表。同報道官は、「北イラクのエルビルからトルコ南東部ジェイハンへ送られた石油の一部は欧州市場に売却された」、「北イラクのエルビルからトルコに対しては月間250万バレルの石油が送られたが、イラク中央政府との関係上輸送を停止していた。しかし、イラク中央政府からの北イラクに対する予算が削減されたままであるため、我々は行動に出た」旨述べた。(6月3日付T紙5面)

##### ●北イラク産出原油搭載タンカー、地中海を彷徨う

北イラク産出のトルコで貯蔵されていた250万バレルの原油が搭載されたタンカーは、南東部ジェイハンを出発した後、購入先と到着点が不明なまま地中海にて不明な航路を描いている。船の航跡を示すインターネット上では、ジェイハンを出発した欧州行きタンカーは頻りに方向を変えており、メキシコ湾に向かった大西洋航路から抜け出て、今度はモロッコへ帆先を変えた。SOMO(State Oil Marketing Organization)の説明では、ジェイハン発のタ

ンカーに搭載されている原油は必要な手続き許可が取られていないとしている。(6月4日付T紙4面)

### 【クルド問題・和平交渉プロセス】

#### ●副首相、法的作業取組はなし

アルンチ副首相は、クルド問題和平プロセスに関して、新たな法的整備の準備は行っていないと述べた。(6月3日付HT紙16面)

#### ●AKP議員団、アイルランド訪問

AKPは5月にアフィオンカラヒサルにおいて開催したAKP会合においてクルド問題和平プロセスに関して議論したことを受け、先週、5名からなるAKPの議員団がアイルランドを訪問し、英国とIRA間で和平を達成したIRA関係者らと面会した。

同議員団メンバーの一人であるムルタザ・イエティシュ議員によると、「アイルランドではIRAを含まない形で各政党が協議したが失敗した。その後は、英国政府、アイルランド政府、IRA代表のシン・フェイン党が含まれる形で1998年に「聖金曜協定」(ベルファスト合意)の合意に至った。現在、「自治」といった大きな話の代わりに小さくても意味ある一步を踏み出す必要がある。これはアイルランド人によると「構造の不明確性」の段階となる。和平プロセス合意後も継続が重要であり、これを「自転車の運転」と例えると、運転を止めてしまうとバランスを失う、という意味である」と述べた。(6月3日付HT紙16面)

#### ●BDP、誘拐された子供と家族を面会させる

BDPは、子供を誘拐されたクルド人家族らがPKKに対して開始した抗議活動を終わらせ、子供たちを取り戻すために取組み中で、BDP議員団はイムラル島に服役中のオジャランPKK首領及び北イラク・カンディルのPKK幹部らと面会を行う予定。ある情報では、カンディルとオジャラン首領の承認により18歳の子供たちは北イラクの安全な場所に集められ、BDPがカンディルに連れてきたところで、子供たちの家族と再会させる予定。自宅に戻る希望のある子供たちは家族に引き渡される予定。(5月30日付HT紙22面)

#### ●首相、BDPやHDPを批判

3日、エルドアン首相は党会派会合の際に、(PKKにより誘拐された子どもたちに関連して)BDP及びHDPの責任を追究し、「子どもたちが山に連れ去られている中、BDPやHDP議員らの子どもたちは米国や欧州に留学している。しかし、誘拐された子どもたちの母親たちはもう黙ってはいない。BDP及びHDPは子どもたちの家族を苦しめている」旨述べた。(6月4日付HT紙16面)

#### ●BDP党首、「一部の家族はお金と引き替えに抗議活動」

デミルタシュBDP共同党首は、東部ディヤルバクルで座り込み抗議活動を行っている(PKKにより誘拐された子どもたちの)家族らに関して、「諜報情報によると、一部の家族らはお金と引き替えに抗議活動をおこなっている。(PKKのいる)山には連れさらされた子どもたちはおらず、一部は麻薬密売組織に誘拐されたようだ」旨述べた。(6月4日付HT紙18面)

#### ●HDP党首、「子どもを探る組織ではない」

エルトゥール・キュルクチュHDP共同党首は党会派会合の際に、「我々は(誘拐された)子どもたちを探し出す組織ではない。政府のやるべき重要なことは、和平プロセスの速度を上げること、衝突をなくすこと、皆とともになって子どもたちを取り戻すために支援することである」旨述べた。(6月4日付HT紙18面)

#### ●クルド語・トルコ語による初の経済雑誌発刊へ

ディヤルバクル等周辺地域を対象にしたクルド語・トルコ

語による月刊経済雑誌『Abori/Ekonomi』(※)誌が発刊される予定。発行者は新聞記者のヴェイスィ・ポラット氏であり、同氏はクルド・ビジネス界における問題や投資、解決策等を議論するプラットフォームとなる雑誌を目指している。記事内容は成功物語や産業・投資用データ、インタビュー、企業紹介、文化芸術、自動車、科学技術、環境、スポーツ等からなる予定。(6月4日付T紙4面)

#### ●【参考論調】ディヤルバクルから見る(2)

クルド問題和平プロセスに対する東部バトマンの人々の印象もディヤルバクルにおけるものときほど変わりはなく、人々はこの和平プロセスは彼ら自身の闘争の結果獲得したものであり決してあきらめることは望んでいない。

ソマ炭鉱事故が発生した時にバトマンにいたが、この労働事故はディヤルバクルからディジュレに至るまで広範囲で抗議デモが行われた。このように「クルド人は自分たちの問題にしか関心がない」という批判は不当であることを再確認した。

BDPから選ばれた自治体首長に対する期待は次第に高まっている。人々が(注:3月の地方選挙及び6月の同選挙再投票の際に)BDPに投票したのも、これまで以上のサービスを期待しており、かつ問題解決のためにこれまでと異なる政策が展開されることを望んでいるからである。BDP支持者らは、恐らく初めて厳しく批判的にBDPにアプローチしていると考える。(6月3日付T紙3面、Enver Sezgin氏)

#### 【これまでの和平プロセスの流れ】

2012年12月28日、エルドアン首相はオジャランとの面会を再開したと発表。(2013年3月19日付H紙インターネット版)

第1回訪問:2013年1月3日(木)

BDP議員2名(アムト・トルク、アイル・アカト・アタ)

第2回訪問:2月23日(土)

BDP議員3名(ヘルグ・イン・ブルダク、スレイハ・オズデル、アルタン・タン)

第3回訪問:3月18日(月)

BDP議員3名(セラハッティン・デミルタシュ、ブルダク、オズデル)

第4回訪問:4月3日(水)

BDP議員3名(デミルタシュ、ブルダク、オズデル)

第5回訪問:4月14日(日)

BDP議員2名(ブルダク、オズデル)

第6回訪問:6月7日(金)

BDP議員2名(デミルタシュ、ブルダク)

第7回訪問:6月24日(月)

BDP議員2名(デミルタシュ、ブルダク)

第8回訪問:7月20日(土)

BDP議員2名(デミルタシュ、ブルダク)

第9回訪問:8月17日(土)

BDP議員2名(デミルタシュ、ブルダク)

第10回訪問:9月15日(日)

BDP議員2名(デミルタシュ、ブルダク)

第11回訪問:10月14日(月)

BDP議員1名(ブルダク)

第12回訪問:11月9日(土)

BDP/HDP議員3名(ヘルグ・イン、イリス・バルケン、オズデル)

第13回訪問:2014年1月11日(土)

BDP/HDP議員3名(ヘルグ・イン、バルケン、オズデル)

第14回訪問:3月9日(日)

BDP/HDP議員3名(ヘルグ・イン、バルケン、オズデル)

#### 【トルコから見たシリア情勢】

#### ●トルコ政府、アル・ヌスラ戦線をテロ組織と認定

3日付官報において、トルコ政府はシリアで活動するアル・ヌスラ戦線をアル・カーイダ系関連組織リストに掲載したことを発表。これにより、トルコ政府が初めてアル・ヌスラ戦線をテロ組織であると認定したことになり、今後、アル・ヌスラ戦線に関係する法人や組織等の資金凍結が可能となる。野党 CHP 及び BDP 等は、これまでトルコ政府がアル・ヌスラ戦線を含むシリア反体制派を支援しているとして批判していた。(6月4日付 T 紙 7面)

#### ●シリアで大統領選挙実施

(1)3日、シリアで大統領選挙投票が実施予定。シリア政府の説明では、シリア国民 2500 万人の内、300 万人が海外に居住、また、国内 2200 万人のうち 85%が政府支配下地域におり、有権者数は 1500 万人。(6月3日付 T 紙 3面)

## 軍事

### 【PKK 関連】

#### ●【参考論調】国家はオジャランに束縛される

2013年1月の記事で私は PKK がトルコ国外へ撤退することではなく、武装解除することもないと主張していた。残念ながらこの分析は事実となっている。和平プロセスにより、PKK はテロ集団ではなく抵抗組織になった。今後、トルコは以前にも増して PKK の問題を無視できなくなる。過去、オジャランは死刑を免れた段階では国に依存していた。しかし、現在立場は逆転しており、この事実気づいている PKK は、様々な地域でトルコ国旗を叩き、道路を封鎖し、自主的な管理を試みている。

エルドアン首相は、オジャラン PKK 首領に対して誘拐された子供を解放するよう依頼することすらできずに、クルド政党 HDP に依頼した。当然 HDP は、保育園を管理しているわけではないと首相に打ち返すほどだ。オジャラン首領は、HDP に対し和平プロセスを中断させるべきではないとのメッセージを伝えた。このはっきりしたメッセージにもかかわらず、PKK は封鎖を維持しようとしている。

私は、2012年にエルドアン首相はオジャランに屈服するだろうと主張し、AKP 支援者から怒りを買ったが、我々は今、エルドアン首相がオジャランに屈服している様子を目の当たりにしている。(6月5日 TZ 紙 15面、Emre Uslu 氏)

### 【シリア関係】

#### ●スレイマン・シャーの霊廟に無線機

軍関係者によると、トルコが領有するシリア内の飛び地であるスレイマン・シャー霊廟に長距離通信(数百 km)が可能な無線機が再び配備された。同無線機は、シリア側から公式に抗議され、一度は撤去されていたもの。(6月5日 HD 紙インターネット版)

### 【防衛装備品関連】

#### ●無人偵察機開発を加速

与党 AKP は、2011年の総選挙前のスローガンとして、無人偵察機が間もなく空を飛ぶと宣言していた。しかし、無人機の開発は遅れており、何度も墜落していたが、現段階では成功しつつある模様。4月29日にエルドアン首相は、「我々は無人偵察機を製造できる技術レベルに達した」と発言している。アンカ(不死鳥)と名付けられた無人偵察機は、2016年から生産に入る計画となっている。アンカは中高度無人偵察機であり、同時に高高度無人偵察機も試験段階にある。軍関係者は、同高度無人偵察機の有する静粛性により、南東部での軍の活動の助けになると述べた。(6月3日付 HD 紙 1面)

### 【マーヴィー・マルマラ号事件関連】

#### ●イスラエル軍幹部に対し、トルコが赤手配(続報)

トルコがマーヴィー・マルマラ号事件に関し、イスラエル軍幹部4名の赤手配を国際刑事警察機構(ICPO)に申請した事実について、イスラエルのモーシェ国防相は、政治的な動きであると感じる旨発言。関係筋によると、イスラエル政府とトルコ政府間では、死傷者の遺族・家族に対し、総額2000万ドルを支払う準備をしている模様。(5月29日 HD 紙 1面)

### 【一般】

#### ●ソマリアで殺害されたトルコ航空職員、エルゲネコンの被疑者だった

5月27日、ソマリアの首都モガディシュにおいて殺害されたトルコ航空職員サーディティン・ドアン氏は、元軍人で、国家転覆を企図したとしたエルゲネコン事件の被疑者であった。駐ソマリア・トルコ大使は、「銃撃時ドアン氏と共に乗車していた3名は銃撃されておらず、ドアン氏が対象となっている。犯行声明は発出されていないが、2013年在ソマリア・トルコ大使館が自動車爆弾攻撃を受けた際に犯行声明を発出したテロ組織アル・シャバーブが実行した可能性も考えられる。」と述べた。

(5月29日付 HD 紙 1面)

#### ●軍総合訓練

5月5日～6月5日にかけて、国内各軍が協力した合同訓練を実施中。5月28日、イズミルにおいて、オゼル参謀総長、ユルマズ国防相視察の下、陸・海・空・軍警察(ジャンダルマ)・沿岸警備隊の各軍トップも参加した訓練が実施された。訓練には、航空機50機、艦船40隻、小型艇70艇、ヘリ40機、戦車60台等が参加した。同訓練は全て夜間実施され、夜間時の対処要領を確認。5月29日は、エルドアン首相も視察。



(5月29日付 H 紙インターネット版)

#### ●イラン情報収集機、トルコ領空侵犯

6月1日、イラン軍情報収集機が東部ウードゥル県国境からトルコ領空に1分20秒間入った。トルコ空軍は、F-16戦闘機が緊急対応した。(6月3日付 C 紙 12面)

#### ●ジャンダルマの組織改編

関係筋によると、内務省は、昨年12月の大規模汚職事件に関連し、現在ジャンダルマ(軍警察)の組織改編を検討中。現在、ジャンダルマは内務省傘下の軍として、地方司令部指揮下の組織となっているが、今後はジャンダルマを警察と同様に県知事の指揮命令下に置き、警察本部長と同じ立場のジャンダルマ本部長を設置し、治安担当副県知事の下に警察及びジャンダルマが県単位で緊密に連携する体制を構築するとしている。(6月3日付 M 紙 23面)

#### ●司法介入はもはや犯罪ではない

国会は、第5司法改革一括法案の議論を開始した。同案によると、司法への不介入に関する刑法第277条は改正され、検察官に介入することは犯罪ではなくなる。現行刑法第277条は、「公平かつ公正な司法手続きを確実にするため、司法に介入する行為を犯罪とする。」と定めている。検察官 OB のメテ・ギョクトウルク氏は同改正が実行されることになれば、市民の司法への信頼は失墜し、政府が司法官

に介入することを合法とし、三権分立を破壊する行為であると述べた。(6月4日付TZ紙5面)

### ●【参考論調】リビアの更なる不確実性

リビアは不確実な方向に向かっている。リビアの新たな主役は、カリファ・ハフター将軍。彼はベンガジ陸軍士官学校を卒業し、当時のソ連軍を研究し、後に軍のカダフィ支援者の一人となる。1980年代、彼はリビア軍チャド遠征部隊指揮官となったが、チャドにて捕らえられ、コンゴ民主共和国へ逃れた後、CIAにより極秘に米国へ連れ出され、米国に定住して市民権を得た。

5月16日、ハフター将軍は、「Karama（尊厳）作戦」を開始。これは軍事クーデター以外の何物でもない。ハフター将軍は、テログループからのリビア浄化を目指すとしており、国民は支持すべきかどうか判断できなかったが、次第に支持は増大した。同将軍が実行した内容は、エジプトにおけるアル・シシ将軍と酷似している。ハフター将軍は、リビア最高裁判所に対して、緊急内閣の設立を監督する国民議会を設置するよう要請。緊急内閣は人々の声に慎重に耳を貸さねばならず、新しい選挙体制も構築しなければならないとしている。この点はエジプトの手法とほぼ同一であり、ムスリム同胞団支持者らを浄化すると掲げている点においても類似性がある。

ハフター将軍の活動が成功するならば、トルコの外交政策に対して次のような影響が考えられる。①まず、トルコはこれまで穏健イスラムとしてのリビアに対して多大な投資を行ってきた。もし、ハフター将軍体制と良好な関係を築くことができなければ、これまでの投資が無駄に終わってしまう。②ついで、ムスリム同胞団が中東諸国に普及していくとのトルコの予想は再び外れることになる。③最後に、ハフター将軍のリビアは、トルコと一線を画すエジプト、サウジ、UAEという国々に加えられることとなる。(6月5日TZ紙15面、Yasar Yakis氏)

## 経済

### ●関係間で中央銀行の決定に対する意見が分かれる

中央銀行による金利引下げが小幅であったことに対し、エルドアン首相が政策を批判している中、閣僚間でも意見が分かれている。

アリ・ババジャン副首相及びシムシェッキ財務大臣は、中央銀行の自主性の重要性と政治的圧力から中央銀行を保護する必要性を指摘。シムシェッキ財務大臣は、「中央銀行は国家の利益のために最善を尽くしてきたし、これからもそうであると信じている。中央銀行の独立性はこの10年間で得た最大の利益の一つである」としている。また、ババジャン副首相は、我々は主要な原則を放棄したり、与えられた任務に妥協することなく取り組み続けるべきであり、政府や国会が定められた規則を維持し続けている限りトルコの未来は明るいとしている。

一方、ゼイベクチ経済大臣は、エルドアン首相と同様の立場に立っており、高金利政策に懸念を示すと共に、我々が懸念を表明することで中央銀行に圧力がかかっているとは思わないとしている。(5月29日付HD紙10面)

### ●バシュチュ中央銀行総裁、即時の金利引下げに言及せず

2日、バシュチュ中央銀行総裁は、エルドアン首相が参加した関係閣僚会議において、約1時間半のプレゼンテーションを実施。その中で、同総裁は、即時の金利引下げに言及せず、金融引締め政策がリラの通貨下落を防止したと共に、一時的な短期金利の引上げがインフレとの戦いにおける効果的な手段になったとした。また、同総裁は、日本、

米、英、EUでのインフレと金融政策の関係性を示すグラフを用い、いずれの国でも金利を引き上げた後にのみ、インフレが下落していることを示した。

なお、同総裁は、本年の成長率については、政府目標である4%周辺を維持するペースで成長するとの楽観的な見方を示した。(6月3日付HD紙11面)

### ●インフレ率、2年間で最高水準

3日、トルコ統計庁が発表した5月のインフレ率は、対前月比0.4%上昇し、年間ベースで9.6%となった。0.49%上昇との市場の予測は下回ったものの、過去2年間において最高水準。一方、中央銀行は、5月のインフレ率を最高値とし、6月以降は下落するとの見通しを示した。(6月4日付HD紙10面)

### ●ユーロ圏で5月の景況感上昇

欧州委員会が発表した5月のユーロ圏景況感指数は、102.7ポイントと4月の102.0から上昇。ユーロ圏5大国のうちフランスを除く4カ国で景況感が改善。欧州委員会は、人々が仕事や貯蓄の見通しや、全般的な経済状況についてこれまでよりも楽観的になったと説明。ギリシャでは景況感指数が99.1ポイントと、4月の95.4から上昇し、2008年8月以来約6年ぶりの高水準を記録。(5月29日付HD紙11面)

### ●住宅ブーム、警鐘を鳴らしている

中央銀行のデータによると、住宅価格の上昇が消費者物価の上昇を上回り、販売戸数、特に住宅のローン販売戸数が減少。2013年2月～2014年2月までの間の消費者物価指数の上昇率は8%であるのに対し、イスタンブールにおける新築住宅価格は20%、アンカラにおいては15%、イズミルにおいては14%それぞれ上昇。2010年～2014年の期間で比較した場合、消費者物価指数の上昇率は33%であるのに対し、イスタンブールの住宅価格は80%上昇。

住宅価格の異常な上昇は、住宅販売戸数に影響を及ぼしている。トルコ統計庁の発表によると、本年1～4月のトルコ国内の住宅販売戸数は、対前年同期比8%減の34万1000戸となっている。イスタンブールの住宅販売は全体の20%を占めているが、また、同期間における住宅のローン販売戸数は50%減に達している。2013年1～4月において、イスタンブールでは約8万戸の住宅が販売されたが、本年の同期間においては、約15%減の7万戸以下に留まっている。ローンによる住宅購入の側面から見ると、2013年1～4月では、3万7000戸が住宅ローンで購入された一方、本年同期では2万5000戸に減少。住宅販売戸数の減少はアンカラにおいては特に顕著。本年1～4月における住宅販売戸数は、対前年同期比18%減、住宅のローン販売の戸数では70%に留まっている。(6月2日付HD紙10面)

### ●S&P：トルコ銀行のリスク引上げ、ムーディーズ：11銀行の格付け見直し

国際信用格付け機関のS&Pは、トルコの銀行部門の強弱を示すレポートを発表し、対外債務への依存度が上昇していると共に、国内貯蓄率が低く、国内の与信の伸びを下回っているため、国内債務及び資本市場の急速な変化に対して脆弱になるとしている。

他方、ムーディーズは、トルコの銀行は、今後1年～1年半は厳しい環境、不透明な国内市場の中で運営していくこととなるとして、国内11銀行に対する格付もしくは見直しを見直すとしている。対象となる銀行は、Akbank、Asya Participation Bank、Denizbank、Garanti Bank、İşbank、Şekerbank、Türk Ekonomi Bankası、Vakıfbank、Yapı Kredi、Halkbank、Ziraat Bankの11銀行。(6月5日付HD紙10面、M紙14面)

### ●トルコ輸出業総会、5月の輸出は最高額

1日、トルコ輸出業総会(TIM)が発表したところによると、本年5月のトルコの輸出額は、対前年同期比5.8%増の134億ドルとなり、過去最高水準を記録。本年1~5月の輸出総額は、対前年同期比8.5%増の670億ドルとなった一方、輸入額は4.2%減少し、貿易赤字は24%縮小。(6月2日付HD紙10面)

### ●日本のメディア大手がトルコ市場に参入

2日、日経BP社がトルコのMDG社の株式80%を取得し、同国での出版事業に参入することを発表。社名は、日経MDG社とし、本社をイスタンブールに置く。社長にはMDG社の創業者であるザフェル・ムトゥル氏が就任し、日経BP社から代表権を持つ上級副社長が派遣される。(6月3日付HD紙10面)



●TAV、アタテュルク国際空港に新ターミナル建設を模索  
トルコの空港建設・管理会社TAVのCEOは、アタテュルク国際空港における国際線の新ターミナル建設について、空港当局と交渉中であることを明らかにした。イスタンブールに既存の2空港に加え、2016年の操業開始が予定されている第3空港の建設が本年6月に開始されたところであるが、政府・TAV共にアタテュルク国際空港の存続の有無については言及していない。

なお、TAVによるアタテュルク国際空港の運営権は2021年で満期となるが、CEOは、契約満了までに同空港の年間利用客数を6500万~7000万人まで増やすよう取り組んでいるとし、新ターミナル建設には1億ユーロを見込んでいるとしている。(6月4日付HD紙11面)

### ●5月、トルコ自動車業界さらに落ち込み

4日、トルコ自動車販売協会(ODD)が発表した5月の自動車販売台数は、対前月比28.7%減の5万8211台。販売内訳は、乗用車が4万6379台、商用車が1万1742台。リラ安、借入コストの上昇、本年1月からの増税やローン規制が影響している。また、1~5月の自動車生産台数は、26%減の22万6698台であり、本年末までの生産台数は65万~70万台と見込まれている。

なお、5月のメーカー別自動車販売台数では、フォルクスワーゲンがトップ(9149台)で、ルノー(7226台)、フィアット(6855台)、フォード(5593台)となっている。フォルクスワーゲンは、トルコ国内に生産拠点を有しておらず、本年3月にはポーランドに生産工場を建設。

一方、伝えられているところによると、日本自動車メーカー大手の日産がイズミルもしくはアダパザルに生産工場を建設することが決定しているとしており、期待が寄せられている。(6月5日付HD紙10面)

### ●TÜSİAD 会長が辞任

4日、ムハッレム・ユルマズ TÜSİAD 会長が突然の辞任を発表。昨年1月に会長に選出されたところ。辞任の理由は、TÜSİADの威信を壊さないためとしている。

同氏が代表を務めるトルコ大手の乳製品企業である Sütas 社のブルサ工場で勤務する職員が労働組合に加入しようとし同社から解雇、これに対する抗議運動が発生したため、同社は工場前の門に牛の排泄物を撒くと共に、運送トラックで抗議運動をシャットアウトしたとの報道がなされていた。(6月5日付HD紙11面)

## 治安

### 【PKK 関連】

#### ●PKKによるクルド人年少者誘拐問題

エルドアン首相が、BDP、HDP(親クルド政党)に対して、誘拐された年少者の解放要請を強く迫り、AKPとBDP、HDPの緊張が高まっている。

現在、ディヤルバクル県庁前で、PKKに誘拐されたとされる年少者の16家族が座込み抗議を実施。BDPのデミルタシ共同党首は、被害者家族に対し、PKKと(解放に向けた)話し合いをすると発表。(5月29日付HD紙1面等)

#### ●CHP 党首、先行き不透明な和平プロセスを批判

CHPクルチダルオール党首は、停滞中の和平プロセスについて、「現在の和平プロセスが、クルド問題の解決策であるかどうか分からない。政府は南東部にジャンダルマ駐屯所を増設しようとしており、クルド人は不満を募らせている。」と語り、和平プロセスに対する政府の態度を批判。(6月5日付HD紙1面)

#### ●南東部の衝突で兵士5名が負傷

ディヤルバクル県内では、先週からジャンダルマ検問所の建設を巡って、抗議者とジャンダルマ間に緊張が高まっており、先週5月31日の衝突ではジャンダルマ兵士3名が負傷。

4日、ディヤルバクル県ービンギョル県を結ぶ道路工事をPKKの青年組織であるYDG-H(愛国革命青年運動)のメンバーらが妨害し、ジャンダルマとYDG-Hら抗議者の間で衝突が発生。抗議者側は花火や閃光弾を投擲。この衝突でジャンダルマ兵士5名が負傷し、病院へ搬送された。(6月5日付HD紙4面)

#### ●市バスが燃やされる

4日午後6時30分ころ、ガーゾィオスマンパシャ市内オスマンベイ通りにおいて、走行中の市バスが数名によって停車させられ、乗客、運転手がバスから下ろされたうえ、火炎瓶の投擲を受け、無人の市バスが全焼する事件が発生した。なお、同地区ではHDP(PKKと繋がりのある政党)とMHP(右派政党)の間で衝突が発生しており、事件が起こる前にも付近で衝突が発生。警察が放水、催涙弾を使用して衝突を鎮圧していた。(6月5日付M紙インターネット版)

### 【デモ関連】

#### ●参考論調「街頭抗議活動とインテリジェンス」

情報機関はオクメイダヌ地区でのデモ活動に関与していたのだろうか。私も確実なところは分からないし、誰しも事実は分からないのだけれど、試みに過去の事実を検証してみよう。

DHKP/Cは2008年にヘリコプターを利用したエルドアン首相暗殺計画を企図したが、情報機関が事前に情報を入手し、未然に防いだ。この一部の人間しか知らない暗殺計画の情報を入手した情報機関が、DHKP/Cによるオクメイダヌでのデモ活動を知らなかったと言えるだろうか。

また、ゲジ公園事件後に発生した、DHKP/CによるAKP事務

所に対する対戦車ロケット砲撃においては、破壊力のある砲撃を受けた筈の AKP 事務所は重大な損害を被っていない。砲撃を行った者は情報機関に勧誘された者で、ロケット砲撃は偽装とも言われている。

今回のオクメイダヌ地区でのデモ活動に情報機関が関与していたのかどうか。情報機関は何も知らなかったのだろうか、疑問である。

(5月29日付TZ紙15面)

#### ●ジェムエヴィ付近にいた男性を撃った警察官が判明

エフカン・アラ内相は、5月22日にオクメイダヌ地区で発生した、デモ隊と警官隊との衝突の際、付近のジェムエヴィで葬儀に参加していたウール・クルト氏が流れ弾を受けて死亡した事件で、同氏が撃たれたけん銃が特定されたと発表。検察当局もこのけん銃が警官のものである事を確認した。検事は警官のけん銃14丁を鑑定し、ウール・クルト氏が撃たれたけん銃を特定した。

一部の目撃者は、付近でデモが発生していないのにも拘わらず、ジェムエヴィの前方約20mから、警官が直接ジェムエヴィを狙ってけん銃を発砲したと証言している。(5月30日付TZ紙17面)

#### ●ゲジ公園大規模抗議デモから1周年

(1)タクシム連帯プラットフォーム(NGO)等により、5月31日(土)19時にタクシム広場での参集が呼び掛けられた。同呼び掛けを受け、イスタンブール県警は同日10時50分頃ゲジ公園及びタクシム広場を入場禁止とした。また、15時頃、ムトゥルー・イスタンブール県知事の命により、アジア側からヨーロッパ側への交通船は運行を停止した。19時頃、イスティクラール通りに参集した者に対し、警官隊は催涙弾・放水を用い強制的に散会させた。

(2)アンカラ、イズミル、エスキシェヒル、アンタルヤ、カイセリ、シヴァス、ゾングルダック、イズミット、テキルダール、アダナにおいて、それぞれ19時に参集が呼び掛けられ、それぞれ抗議デモが行われた。判明している各地の拘束者は、アンカラ47名、イズミル50名、アダナ27名。

(3)5月31日(土)、イスタンブール大市シシリ市オクメイダヌ地区ピヤレ・パシャ通りにおいて、道路を塞いでいる一団を警官隊が催涙弾等を用い排除した。(4)同日、タクシム広場付近において現場の状況をライブ中継していたCNN国際特派員が、中継中にそのまま拘束され、拘束される映像が同局によりライブ映像として放送された。

(5)6月1日(日)、ハルク・ジェベシ(NGO)の呼び掛けにより、タクシム広場近くのイスティクラール通りに参集した一団は、警官隊と衝突し、37名が拘束された。

(6)6月1日(日)、自由シリア軍関係者シリア人約30名が、アサド政権に対する抗議活動のために参集したが、同地を管轄するベイオール警察署長の説得に応じ、15分程度で散会。(6月2日付C紙6面)

(7)6月2日(月)、ゲジ公園において、トゥールル・トゥナル(27歳男性)が死亡した状態で発見された。6月1日から同位置に横たわっていたとする目撃情報がある。死因については特定できていないが、てんかんの発作の可能性が指摘されている。

(8)5月31日から6月1日にかけてイスタンブールにおいて合計154名が拘束され、62名が裁判所に送られた。(6月3日付HD紙2面)

#### ●【参考論調】証拠がここにある

6月1日、オカン・オズジェリックは、ゲジ公園において、左目に警察官が発射した催涙弾が直撃した。彼は同映像を

携帯電話で記録していた。彼の左目が見た最後の映像は、高速で接近する催涙弾であり、その状況は携帯電話に記録され、彼が倒れた後も、友人が病院への搬送までを映像として記録していた。オカン氏は、事件後、イスタンブール県と内務省に対し訴訟を起こした。催涙弾を上方45度の確度で発射しなければならないとする警察の内規があるにもかかわらず、同催涙弾は明らかにオカン氏を標的として発射されている。権力は、この明らかな証拠に対し、因果関係がないと言うのか、モニタージュであると言うのだろうか。(6月3日付C氏6面、Can Dundar氏)

#### ●CNN特派員の拘束

(1)5月31日、CNNイヴァン・ワトソン特派員は、放送中に短時間拘束され、警察官に蹴られたと主張している。エルドアン首相は、与党AKPへの毎週実施される演説のなかで、「CNN国際特派員の使いつ走りは、そこで何かしようとしていた。彼らは昨年のゲジ公園デモの際、特集番組を8時間放送した。なぜか。私の国でトラブルを巻き起こすことを目的としているのだ。今年、彼らは現行犯で捕らえられた。彼らは独立した公平なメディアとは無関係である。彼らはエージェントだ。また、私には警察を守る権利がないのだろうか。そんなことは不可能である。同じような抗議活動を米国、イギリス、スペインでやってみるがいい。我が警察を目標とする人々が他国でどのように振る舞うのか注視しなければならない。」と述べた。(6月4日付HD紙3面)

(2)3日、米国国務省ハルフ副報道官は、ワトソン氏の身柄拘束容疑に対するエルドアン首相の発言に対し、「ばかげた訴えだ。CNNは公平なメディアであり、我々はトルコでの報道の自由を強力に支持する。」と語り、エルドアン首相の主張は不当であるとして批判した。(6月5日付HD紙3面)

#### 【一般】

#### ●検察当局ギュレン師を捜査

アンカラ検察当局は、ギュレン運動の創始者ギュレン師に対し、国家転覆組織結成、世俗主義国家からシャーリア法に基づく宗教的独裁国家への転換企図容疑で捜査を開始。検察当局によれば、ギュレン運動が運営する学校で、生徒に対して洗脳教育が行われているのみならず、警察、政治、軍事分野にも影響を及ぼしているとのこと。(5月29日付HD紙3面)

#### ●サバフ紙が6年間の税金未払い

エルドアン首相の義理の息子の兄弟が運営し、政府寄りの新聞として知られるサバフ紙が、6年間税金を支払っていないとの疑惑が報じられている。疑惑が真実であれば、トルコ商業規則により、今後出版が差し止められる可能性がある。

一部報道によれば、サバフ紙は政府系銀行から7億5000ドルの融資を受けており、過去6年間に渡り、利益がないことを理由に税金が未払が続いているとのこと。(5月29日付TZ紙7面)

#### ●トルコの裁判所、アル・シャバーブ5名に対し逮捕状

アンカラ第6刑事法廷は、2013年7月28日、ソマリア・モガディシュの在ソマリア・トルコ大使館への自爆攻撃に関与した容疑で、アル・カーイダ系テロ組織アル・シャバーブ構成員のエチオピア人5名に対し逮捕状を発出した。(6月3日付HD紙2面)

#### ●東部ウードウル県において、イラン諜報機関員拘束

東部ウードウル県において、シリア反体制派及びPKK構成員とも会合していたとして、イラン諜報機関員2名(シフラム・ザークラム・オヘイ、モハメッド・レザー・エスマ

イルプル・アリ・マレック)が治安機関により拘束された。(6月2日付C紙12面)

## 社会

### ●離婚率上昇

現在、トルコの家庭裁判所で取り扱われている案件の70%が離婚裁判。2004年の離婚数は9万1022件。2013年末の離婚件数は12万5305件に増加。離婚数が増加する一方、婚姻数も減少。2004～2013年の10年間で、婚姻率は2.5%減少し、離婚率は38%上昇。(5月25日TZ紙3面)

### ●トルコ人家庭の3分の2が地震保険未加入

トルコでは地震保険への加入が強制であるが、実際に加入しているのは1760万人中630万人。トルコ自然災害保険機構(DASK)の報告によると、2000年～2014年の間、トルコで地震が435回発生しており、1億5700万トルコリラの保険料の支払いが完了。その内1億2760万リラはヴァン地震に対する支払い。(5月28日付TZ紙7面)

### ●261mからの楽しみ

プロベース・ワールドカップ(ProBASE World Cup)の参加者らは、「サファイア」ビルの屋上(地上261m)から飛び降り、見物人らを驚かせた。文化・観光省の支援により、世界17カ国62人のパラシューターらはトルコで一番高いビルからジャンプし、色とりどりのパラシュートで魅了した。ただし、参加者が1名同ビル側面に落下ししばらく下がったことからイベントは中止された。(5月29日付H紙30面)

### ●オルタキョイモスク修復工事終了

ボスポラス海峡沿いにある「オルタキョイモスク」として美しさと著名な「メジディエモスク」が、600万トルコリラをかけての修復工事が終了した。6月6日、エルドアン首相がオープニング式典に出席し、一般公開される予定。(5月30日付HT紙6面)

### ●トルコ航空は、日本人にとって大切な存在

トルコ航空(現在では「ターキッシュ・エアラインズ」と邦語名を改正)主催のアマチュア・ゴルフトーナメントが東京でも開催され、特別ゲストとして昭恵総理夫人が参加。同夫人は、「1985年イラン・イラク戦争の際、イランに閉じ込められた日本人を救ってくれたのはトルコ航空です。トルコ航空は、私達にとって大切な存在です。」と述べた。(5月30日付HT紙6面)

### ●ヨーロッパで肥満率が一番高いのはトルコ人女性

ワシントンの健康メトリクス及び評価研究所(IHME)の調査結果によると、やがて世界人口の3分の1が肥満になることが分かった。世界で肥満又は太り過ぎ(過体重)の人口は21億万人に上る。同報告書によると、世界人口の30%が肥満と太り過ぎである。20歳以上のトルコ女性の65.8%トルコ男性の63.8%が太り過ぎであり、また、トルコ女性の肥満率は34.1%で、ヨーロッパで最も高い水準であることが判明。専門家は、肥満率の上昇理由を現代社会での運動不足であると結びつけた。(5月30日付M紙6面)

### ●第三大橋の建設工事区域の下に遺跡

建設当初より、ボスポラス第三大橋の工事区域には考古学的な遺跡が眠っているとされているが、工事を遅らせられないため、イスタンブール考古学博物館に対して遺跡に関する情報は一切伝えられず、Ictas-Astaldi社が作成したトルコ環境影響評価・監査局へ提出する報告書内に、建設のための財源を円滑に受け取るため、遺跡に関する情報は記載されなかった。

米AECOM社から環境影響評価・監査局に提出された当初の報告書によると、工事現場の13区画には遺跡が眠ってい

ると記載されており、仮に本当に考古学的価値のある遺跡があるならば、イスタンブール考古学博物館はその権限に基づいて工事を止めさせなければならない。環境学者らはボスポラス第三大橋は、環境への悪影響とともに、イスタンブールの渋滞を更に悪化させると述べている。(5月30日付TZ紙3面)

### ●プリンスイズ諸島に人魚姫

俳優シャファック・オルバイ氏とインスタレーション(注)作家ギュルハン氏により設立されたプリンスイズ諸島「独立芸術プラットフォーム」の提案で、彫刻家フェリヤル・タネル氏が制作した「人魚姫」の彫刻をビュユック・アダ島の岩上に設置した。人魚姫の座高及び尻尾の長さは約2m。(6月2日付HT紙23面)

(注: 絵画・彫刻・映像・写真などと並ぶ現代美術における表現手法・ジャンルの一つで、特定の室内や屋外などにオブジェや装置を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し変化・異化させ、場所や空間全体を作品として体験させる芸術。)



### ●看板にもアルコール規制

夜22時以降アルコール飲料の販売禁止後、アルコール飲料販売店のアルコール飲料・会社名が記載されている看板が取り外されている。マーケット内でもアルコール飲料に関する広告・看板を取り外す必要がある。今月6月11日までに広告等の取り外しを完了する必要があり、違反した場合、20万トルコリラの罰金が科される。(6月3日付H紙13面)

### ●空港入口のX線検査廃止

シェネルTAVホールディングスCEOは空港での混雑解消に向け、アタテュルク空港の入口にあるX線をなくし、パスポートコントロールは指紋認証システムを導入する計画があることを発表。既に内務省から了承を得ており、近い将来試験運用する。但し、指紋認証はトルコ人のみを対象とする。(6月4日付HT紙8面)

### ●マルマライの運転士、二人目の心臓発作死

マルマライの運転士の46歳ギュルカン・カゼル氏は、心臓発作のため亡くなった。マルマライにおける2人目の運転士の死亡者となる。2013年10月29日のマルマライの運行開始後すぐに、運転士のユスフ・アダル氏が心臓発作のため死亡。輸送労働者連合組合(トルコ語表記BTS: Birlesik Tasimacilik Calisanlari Sendikasi)のハサン・ベクタシュ氏は、25,000ボルトの高い電圧回線と、3つのGSM会社の存在が運転士に何かしらの影響を与えているのではないかと述べた。マルマライで6ヶ月内に2人も心臓発作による死者が出たことから、ベクタシュ氏は労働社会保障省の労働局に検査を申し込んだ。

(2014年6月4日Cumhuriyet誌 8面)

注：本文中の略語の正式名称は以下の通りです。

略語	正式名称	略語	正式名称
AFAD	トルコ首相府緊急災害事態対応総局	ÖSB	PKKの防衛隊
AKM	アタテュルク文化センター	OIB	首相府民営化管理庁
AKP	公正発展党	PKK	クルディスタン労働党
BDDK	銀行監督庁	PYD	シリア民主主義連合党
BDP	平和と民主主義党	RP	福祉党
BOT	建設・運営・譲渡方式	RTÜK	ラジオ・テレビ高等機構
BSEC	黒海経済協力機構	SNC	シリア国民評議会
CHP	共和人民党	SPK	証券取引監査院
DEP	民主党	SSM	防衛産業庁
DHKP/C	革命人民解放党/戦線	TAI(TUSAŞ)	トルコ航空・宇宙産業会社
DHMI	国家航空局	TBB	トルコ銀行協会
DISK	先進労働組合連合	TCDD	トルコ国鉄
DTK	民主主義社会評議会	TDHB	トルコ歯科医師会
DTP	民主社会党	TEI	TUSAŞ 航空機エンジン産業会社
DYP	正道党	TESK	トルコ商工業連合
EDAM	経済外交政策センター	THY	トルコ航空
EPDK	エネルギー市場監督庁	TİKKO	トルコ労働者・農民解放軍
İDO	イスタンブール海上フェリー会社	TMMOB	トルコ建設業組合
İHH	人権・自由・人道的援助基金	TOKI	トルコ集合住宅開発局
İKSV	イスタンブール文化芸術財団	TOMA	放水装甲車
İSO	イスタンブール産業会議所	TPAO	トルコ石油公団
İTO	イスタンブール商工会議所	TTB	トルコ医師会
KCK	クルディスタン共同体同盟	TÜBİTAK	トルコ科学技術研究機構
KESK	公務員労働組合連合	TÜİK	トルコ統計庁
KPG	北イラク政府	TÜPRAS	トルコ石油精製会社
MHP	民族主義者行動党	TÜSİAD	トルコ産業・実業家協会
MİT	国家諜報機関	TÜYİD	トルコ投資家関係協会
		TYK	トルコ高等教育評議会

注：本文中のニュースソースの略称は以下の通りです。

トルコ語新聞		英字新聞		通信社	
Akşam	A	Economist	EC	Anadolu News Agency	AA
Cumhuriyet	C	Herald Tribune	IHE	Agence France Presse	AFP
Haberturk	HT	Hürriyet Daily News	HDN	Cihan News Agency	CA
Hürriyet	H	Today's Zaman	TZ	Doğan News Agency	DA
Milliyet	M			Ihlas News Agency	IA
Posta	P			Interpress	IP
Radikal	R				
Sabah	S				
Taraf	T				
Vatan	V				
Zaman	Z				

#### 在イスタンブール日本国総領事館

電話：0212-317-4600

FAX：0212-317-4604

E-Mail：istanbulweekly@it.mofa.go.jp

WEB：http://www.istanbul.tr.emb-japan.go.jp/index\_j.html

Facebook：http://www.facebook.com/Japonya.Istanbul.Baskonsoloslugu

#### ●文化行事のご案内：

(1)「オペラと日本のうた・室内楽のタベ」コンサートが行われます。

日時：6月10日(火)18時30分開場、19時開演。入場無料。

場所：旧在イスタンブール日本国総領事館 (İnönü Cad. No.16 Gümüşsuyu Taksim İstanbul)

●トルコに90日以上滞在される方は総領事館に在留届を提出願います。

●新たに配信希望される方、あるいは今後の配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[istanbulweekly@it.mofa.go.jp](mailto:istanbulweekly@it.mofa.go.jp)